



IP8800/A260 ソフトウェアマニュアル

訂正資料

Ver.4.21 以降対応版

■はじめに

このマニュアルは、以下に示す IP8800/A260 ソフトウェアマニュアルからの変更内容を記載しています。

マニュアル名	マニュアル番号	発行
IP8800/A260 ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver.4.21 対応)	IP88A26-S001-60	2020 年 11 月
IP8800/A260 ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver.4.21 対応)	IP88A26-S002-60	2020 年 11 月
IP8800/A260 ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス (Ver.4.21 対応)	IP88A26-S003-60	2020 年 11 月
IP8800/A260 ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス (Ver.4.21 対応)	IP88A26-S004-60	2020 年 11 月
IP8800/A260 ソフトウェアマニュアル メッセージ・ログレファレンス (Ver.4.21 対応)	IP88A26-S005-60	2020 年 11 月
IP8800/A260 ソフトウェアマニュアル MIB レファレンス (Ver.4.21 対応)	IP88A26-S006-60	2020 年 11 月

■商標一覧

Ethernet は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

GSRP は、アラクサラネットワークス株式会社の登録商標です。

IPX は、Novell,Inc.の商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

sFlow は、米国およびその他の国における登録商標です。

イーサネットは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標です。

そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

■ご注意

このマニュアルの内容については、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■発行

2025年 7月 (第5版)

■著作権

Copyright(C) NEC Corporation 2021,2025. All rights reserved.

変更内容

■第5版の変更内容

表 変更内容

マニュアル名	追加・変更内容
メッセージ・ログレフアレンス	下記を変更しました。 「1.2.6 ログの自動保存と参照」 「2.6.2 イベント発生部位=SFP」

■第4版の変更内容

表 変更内容

マニュアル名	追加・変更内容
コンフィグレーションコマンドレフアレンス	「14 VLAN」 switchport validation コマンドを追加しました。

■第3版の変更内容

表 変更内容

マニュアル名	追加・変更内容
コンフィグレーションガイド Vol.1	下記を変更しました。 「14.1.6 MC 運用モード機能使用時の注意事項」
運用コマンドレフアレンス	「4 コンフィグレーションとファイルの操作」 copy コマンドを変更しました。

■第2版の変更内容

表 変更内容

マニュアル名	追加・変更内容
コンフィグレーションガイド Vol.1	下記を変更しました。 「15.1.5 他機能との共存」 「15.1.6 ゼロタッチプロジェクティング機能使用時の注意事項」

■第1版の変更内容

表 変更内容

マニュアル名	追加・変更内容
MIB レフアレンス	「3.14.6 ax260aPhysLine グループの実装仕様(line(物理回線)情報)」を変更しました。

目次

<u>第 1 編 コンフィグレーションガイド Vol.1</u>	5
<u>第 2 編 コンフィグレーションガイド Vol.2</u>	9
<u>第 3 編 コンフィグレーションコマンドレファレンス</u>	10
<u>第 4 編 運用コマンドレファレンス</u>	12
<u>第 5 編 メッセージ・ログレファレンス</u>	14
<u>第 6 編 MIB レファレンス</u>	18

14 MC 運用モード機能

14.1 MC 運用モード機能の解説

14.1.6 MC 運用モード機能使用時の注意事項

追加

(3) スタック動作時の MC 出力について [Ver.4.26.B 以降]

(3) スタック動作時の MC 出力について

- スタック動作時に MC 運用モードを使用している場合、以下の運用コマンド実行後にメンバスイッチの MC に出力する場合（MC の抜き挿し、運用コマンド `update mc-configuration` 実行など）は、60 秒待ってください。
 - ・運用コマンド `adduser`
 - ・運用コマンド `rmuser`
 - ・運用コマンド `set web-authentication html-files`
 - ・運用コマンド `clear web-authentication html-files`

15 ゼロタッチプロビジョニング機能

15.1 ゼロタッチプロビジョニング機能の解説

変更

15.1.5 他機能との共存

15.1.6 ゼロタッチプロビジョニング機能使用時の注意事項

15.1.5 他機能との共存

(2) 本機能で使用する VLANについて

ゼロタッチプロビジョニング機能用の VLAN は、本機能専用 VLAN として設定してください。

本機能で使用する VLAN は、デフォルトコンフィグレーションで VLAN1 が設定されています。他機能と重複しないように本機能専用の VLAN を割り当ててください。

本機能を使用しない場合は、コンフィグレーションコマンド `no system zero-touch-provisioning` で削除してください。

15.1.6 ゼロタッチプロビジョニング機能使用時の注意事項

ゼロタッチプロビジョニング機能用の VLAN は、本機能専用 VLAN として設定してください。

本機能で使用する VLAN は、デフォルトコンフィグレーションで VLAN1 が設定されています。他機能と重複しないように本機能専用の VLAN を割り当ててください。

また、本機能は初期状態で有効です。通常運用では本機能を無効にしてください。（コンフィグレーションコマンド `no system zero-touch-provisioning` で削除し、`save` コマンドで保存してください。）

第2編 コンフィグレーションガイド Vol.2

■ 追加および変更はありません。

第3編 コンフィグレーションコマンドレファレンス

14 VLAN

switchport validation

追加

switchport validation [Ver.4.27 以降]

特定のフレームを廃棄する設定をします。

[入力形式]

情報の設定・変更

switchport validation vlan-tag

情報の削除

no switchport validation

[入力モード]

(config-if)

[パラメータ]

vlan-tag

以下のフレームを廃棄します。

- フレームに付与されている VLAN Tag が 2 段以上かつ 1 段目 Tag の VLAN ID が'0'
- フレームに付与されている VLAN Tag が 2 段以上かつ 2 段目 Tag の VLAN ID が'0'

1. 本パラメータ省略時の初期値

省略できません。

2. 値の設定範囲

vlan-tag

[コマンド省略時の動作]

フレームを廃棄しません。

[通信への影響]

なし

[設定値の反映契機]

設定値変更後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

- チャネルグループに所属するポートに本コマンドを設定する場合、当該チャネルグループに所属するすべてのポートに設定をしてください。
- トンネリングポートは Tag を認識しないため、本コマンドを設定しても無効です。

[関連コマンド]

なし

4 コンフィグレーションとファイルの操作

copy

追加

[注意事項] [Ver.4.26.B 以降]

[注意事項]

- スタック動作時に、テキスト形式のコンフィグレーションファイルのコピー先をスタートアップコンフィグレーションファイルに指定して装置を再起動した場合、起動メッセージが2回表示されます。

第5編 メッセージ・ログレファレンス

1 運用メッセージとログ

1.2 ログの確認

1.2.6 ログの自動保存と参照

変更

(1) ログの自動保存 [Ver.4.27.A 以降]

(1) ログの自動保存

運用ログと種別ログは、以下に示す契機で内蔵フラッシュメモリ上へ自動的に保存されます。またログの保存先を次の表に示します。

ログを自動保存する契機

1. イベントレベル E9 から E5 の重度障害が発生した場合※
2. 運用コマンドの `reload` コマンドにより装置の再起動を行った場合
3. `ppupdate` に伴う装置の再起動を行った場合
4. 装置スリープに移行する場合

注※

同じメッセージ識別子（ポート番号がある場合は同じポート番号）の場合は、24時間に1回の間隔で内蔵フラッシュメモリへ保存されます。

2 装置関連の障害およびイベント情報

2.6 ポート

2.6.2 イベント発生部位=SFP

変更

表 2-50 イベント発生部位=SFP の装置関連の R8 情報 [Ver.4.27.A 以降]

表 2-50 イベント発生部位=SFP の装置関連の R8 情報

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	メッセージテキスト
	内容			
1	R8	SFP	02400201	<p>Port recovered from hardware failure.</p> <p>トランシーバの障害が回復しました。</p> <p>コンフィギュレーションコマンド <code>shutdown</code> を設定した時、または運用コマンド <code>inactivate</code> を実行した時は、本ログに対応する E8 ログの出力が抑止されるため、トランシーバの間欠故障が発生した場合、本ログだけが出力される可能性があります。</p> <p>〔対応〕 なし。</p>

3 プライベート MIB

3.14 ax260aDevice グループ（システム装置の筐体情報 MIB）

3.14.6 ax260aPhysLine グループの実装仕様(line(物理回線)情報)

変更

表 3-39 ax260aPhysLine グループの実装仕様(line(物理回線)情報) [Ver.4.23 以降]

表 3-39 ax260aPhysLine グループの実装仕様(line(物理回線)情報)

項目番	オブジェクト識別子	SYNTAX	アクセス	実装仕様	実装有無
8	ax260aPhysLineLaneTable {ax260aPhysLine 2}	NOT-AC CESSIBLE	NA	トランシーバのレーン情報テーブル	●
9	ax260aPhysLineLaneEntry {ax260aPhysLineLaneTable 1}	NOT-AC CESSIBLE	NA	レーン情報エントリ。 INDEX { ax260aChassisIndex, ax260aPhysLineIndex, ax260aPhysLineLaneIndex }	●
10	ax260aPhysLineLaneIndex {ax260aPhysLineLaneEntry 1}	NOT-AC CESSIBLE	NA	レーン番号の情報。 ・本装置の場合：1	●
11	ax260aPhysLineLaneTransceiver TxPower {ax260aPhysLineLaneEntry 2}	Integer32	R/O	送信光パワー(dBm)を 10 倍した値。 例：-1.0dBm の場合， -10 次の場合は 300 を応答します。 ・トランシーバの光パワーが 取得不可 ・トランシーバの光パワーが 「-40dBm～+8.2dBm」の範囲外	●
12	ax260aPhysLineLaneTransceiver RxPower {ax260aPhysLineLaneEntry 3}	Integer32	R/O	受信光パワー(dBm)を 10 倍した値。 例：-1.0dBm の場合， -10 次の場合は 300 を応答します。 ・トランシーバの光パワーが 取得不可 ・トランシーバの光パワーが 「-40dBm～+8.2dBm」の範囲外	●